

都道府県名	大阪府
-------	-----

・学校の概要（平成15年4月現在）

大阪府交野市立岩船小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計	教員数	
学級数	3	2	2	2	2	2	1	14		
児童数	84	49	53	55	56	48	3	348	19	

・研究の概要

1. 研究主題

「算数科における効果的学習の研究」
 - 少人数授業による基礎・基本の確実な定着と個に応じた指導の推進 -

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数科
 算数科は既習事項の定着が次の学習にとって必要不可欠であり、系統性が明瞭である。
 14年度の反省から「数と計算」の領域については第1学年から学習内容を確実に定着させることの重要性が認識されたので、15年度においては「数と計算」の領域に重点を置き、全学年を少人数授業実施対象とした。

(2) 年次ごとの計画

平成十四年度	テーマ： 「算数科における効果的学習の研究」 - 少人数授業による基礎・基本の確実な定着と個に応じた指導の推進 -
	研究の見通し（仮説）： 少人数授業における適切な学習課題の設定が、学習に対しての意欲・関心を高め、その結果、学習理解が促進される。また、逆に学習理解の促進により学習課題への意欲・関心が高まる。 研究の内容・方法： 異なる学習課題に基づく学習形態・グルーピングの工夫 ・習熟度別、興味関心別、課題量別等の单元ごとの適切なグルーピングの方法 少人数学習グループにおける個に応じた指導のあり方 ・各個人に対する適切な過重負荷のかけ方および支援のあり方 興味・関心を引き出すための教材開発 少人数授業を活かした指導法のあり方 ・少人数ならではの、子ども同士の関わり方、関わらせ方 （一人一人が自己表現し、交流しあえる場の確保等）

平成十五年 度	<p>テーマ： 「算数科における効果的学習の研究」 - 少人数授業による基礎・基本の確実な定着と個に応じた指導の推進 -</p> <p>研究の見通し（仮説）： 少人数授業における適切な学習課題の設定が、学習に対しての意欲・関心を高め、その結果、学習理解が促進される。また、逆に学習理解の促進により学習課題への意欲・関心が高まる。</p> <p>研究の内容・方法： 「よくわかる・きめ細かな授業」の創造による「確かな学力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「個の納得」を実現する教材の開発・研究、導入・発問の工夫 ・ 達成感や自尊感情を育成する授業の展開 ・ 学びの主体性、自己選択能力、表現力を培う指導のあり方 少人数授業における個に応じた指導のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の児童の学習に対するニーズ・レディネスに応じた指導 算数科の基礎・基本の定着のための授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 領域・単元の特性を踏まえた授業の展開 指導と評価の一体化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 形成的評価のあり方 15年度の研究は、14年度の研究内容・方法を整理・検討しながら進めてきた。整理する中で、かなり多くの部分について仮説検証することができていると考えられたので、改めて15年度の研究内容・方法を見直した結果、本年度の研究をより分かりやすく整理するため14年度との表現上の変更を行うこととした。 </p>
------------	--

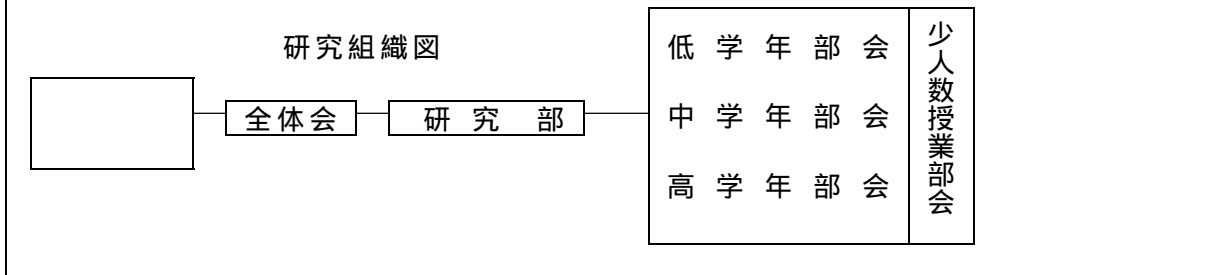
平成十六年 度	<p>テーマ： 「算数科における効果的学習の研究」 - 個に応じた指導の推進と「確かな学力」の育成をめざして -</p> <p>研究の見通し（仮説）： 柔軟かつ多様な個に応じた指導により、「確かな学力」を育むことができる。</p> <p>研究の内容・方法： 「よくわかる・きめ細かな授業」の創造による「確かな学力」の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 領域・単元の特性を踏まえた教材研究・開発、授業の展開 ・ 達成感や自尊感情を育成する授業の展開 ・ 学びの主体性、自己選択能力、表現力を培う指導のあり方 個に応じた指導のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の児童の学習に対するニーズ・レディネスに応じた指導 指導と評価の一体化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 形成的評価のあり方 </p>
------------	---

(3) 研究推進体制

加配教員を校内研究体制内の研究推進委員会に位置づける。同委員会において、少人数授業の実践・研究の報告・交流を通して、基礎・基本の定着や学力の向上、学習形態や課題設定の方法等の検討を行う。

「自ら学び、よりよい生き方を探究する児童の育成」を目指した校内研究推進に当たり、少人数授業で培われた児童一人ひとりの学習意欲、成就感、達成感が他の教科学習や学校生活全般にどう反映しているか等についても視野に入れ、研究を推進する。

基礎・基本の定着、学力の向上、学習形態や課題設定の方法等の検討を行うため、加配教員を校内研究体制内の研修推進委員会に位置づけ、同委員会において、少人数授業の実践・研究の報告・交流を行う。



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

本年度は昨年度の反省に基づき、単元の絞り込みを行った上で全学年を少人数指導の対象として取り組んでいるが、1年生については発達段階や学級経営の面を考慮し、T・Tとして取り組んだ。

指導の結果については以下の表の通りであり、一部平均点の下がったものもあるが、全体的にはよく理解できていたといえる。

2年生					3年生						
平均点	大きい数	加算と減算	かけ算	大きい数2	平均点	加算と減算	加算と減算補充指導	表とグラフ	わり算1	大きい数	大きい数2
14年度					14年度						
15年度	86.8	90.5	91.9	93.6	15年度	83.0	94.6	84.2	95.7	78.3	90.1

4年														
平均点	大きい数	円と球	わり算	およその数	折れ線グラフ	かわり方	式と計算	わり算2	三角形	小数	角と角度	整理のしかた	分数	面積
14年度	69.2	82.1	83.3	70.8	84.1	71.5	78.0	74.2	93.9	93.3	81.5	92.6	88.0	78.3
15年度	65.8	87.0	85.0	67.2			73.3	83.7			87.8			

5年										
平均点	四角形	整数と小数	小数の乗除	三角形と角	小数のかけ算	小数のわり算	図形の面積	分数	割合・グラフ	円
14年度	84.3	77.2	71.3	84.1	87.6	74.0	76.2	96.9	85.5	82.0
15年度	83.3					81.9	72.7		88.9	

6年											
平均点	整数の性質	分数の加減算	直方体と立方体	体積	平均	単位量	分数の乗算	分数の除算	分数の乗算と除算	比	比例
14年度	78.4	84.8	83.1	81.4	78.6	81.4	85.7	80.0	80.4	86.4	89.6
15年度			91.7	83.0		81.4	95.6	84.5			

また、単元終了後の意識調査によると単元の学習が「楽しかった」、あるいは「わりと楽しかった」と答える児童がいずれの単元においても常に80～96%を占めていた。このことから、本校における少人数授業が児童のニーズにマッチし、好んで受け入れられていることが見て取れるので、これまでのところ、本校における少人数授業の進め方は基本的には適正なものであったと判断できる。

2. 今後の課題

上の表に見られるように平均点の下がった単元もあるので、それらの単元についてはその原因について考察中である。これまでのところ、評価テストの分析からは、それらの単元に限らず、数学的要素以外の点で欠落しているものがあるように感じられる。従って、次年度においては、算数の指導においてもコミュニケーション能力や自己選択能力などを含めた総合的な学力の向上を目指した指導方法の工夫・改善、教材・教具の工夫・開発など多面的な取り組みが必要だと考えられる。

また、評価については関心・意欲などの評価法、意識調査については調査項目や設問内容等のアンケートの設計方法、実証的な効果測定の方策など課題は山積みであるが、できることから研究を深め、一つ一つクリアしていくことが求められると考える。

・学力等把握のための学校としての取組

本校では児童の学力等の変容を把握するため2通りの調査を行っている。一つは学力診断テストで、前学年までの既習事項について年度当初に実施し、年度末に今年度学習した内容について実施を予定している。これは、他市における診断テストに準じた内容で実施し、結果を集計の上、比較・分析することにより、本校における既習事項の定着度を測るとともに学力向上面での問題点や課題を明らかにする目的で実施したものである。

今一つは、各学年の各単元指導後に実施している評価テストならびに意識調査アンケートである。評価テストは単元終了後、学習内容の定着度を測るために実施している。また、意識調査は単元終了後、その単元における充足度や学習集団編成に関わっての問題点の洗い出しをねらいとして実施している。

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

本研究の成果については、大阪府学力向上推進協議会での実践報告や、本校ホームページ上での公開などを通じ広く公開しているところである。また、随時授業を公開し、子どもたちの学習の様子などをオープンにしていくとともに、公開研究授業を行い広く研究成果の普及に努めている。

また、他校校内研究会にも赴き、本校のこれまでの実践事例を紹介し、研究推進上の参考としていただいている。

因みに、本年度は平成15年10月15日に大阪府北河内地区学力向上推進協議会に合わせ、管内関係者を対象に5年生の「小数のわり算」の公開授業を行い研究協議を行った。と同時に、交野市教育課程研究協議会での実践報告および市新任研、10年研での公開研究授業を実施してきた。

フロンティアティーチャーとしては、白浜市立白浜第一小学校、豊能町立東ときわ台小学校など来校していただいた関係者に対し、本校における実践事例を紹介してきており、また、高槻市立北日吉台小学校、門真市立門真小学校には同校校内研究会の講師として赴き、実践事例の紹介を行ってきた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無